

道徳

ジャーナル

- 21世紀 心の時代に
多様な生と性を尊重するために、私たち大人
ができること 中島 潤…………… 1
- 道徳授業 私の実践
 - ・九年間の研究から考えたこと、十年目の研究
に生かしたいこと～ノートを活用して～
豊田麗香…………… 4
 - ・自分の気持ちが伝えられる道徳授業を目指し
て 岡本茉奈…………… 5
 - ・道徳科で求められる授業実践に関して
井上美智子…………… 6
 - ・多面的・多角的に考え、自己の生き方につ
いて考える授業づくり 北村美菜…………… 8
 - ・思考を深め、思いを巡る旅を共に楽しむ授業
づくり～見えないものをみる(みとる)力～
岡田幸博…………… 10
- どうなるこれからの道徳授業…………… 11
- SDGs×道徳…………… i

21世紀
心の時代に

多様な生と性を
尊重するために、
私たち大人ができること

「今まで一回も、自分のこと、『女の子』って
思ったことないっちゃん」。母にそう告げたの
は、高校生の頃。突然のカミングアウトに、母
は涙を流しました。今考えてみると、何も情報
がない中で急な出来事に驚き、ショックで不
安だったろうと思います。このときの風景は、
情報がないことでカミングアウトをする側だけ
ではなく受ける側も困るのだ、という気付き
と、だからこそ全ての人に情報が必要だ、とい
う思いにつながりました。カミングアウトから
十年余り、今、私は認定NPO法人ReBit
(以下、ReBit)の職員として、各地の教
育現場や行政、企業での研修を行っています。

「多様な性のあり方」を考える

このエピソードから「LGBT」「性的少数



認定NPO法人ReBit
事業本部長

中島 潤

者」「セクシュアルマイノリティ」という言葉
を想起される方も多いかもかもしれませんが、今回
はあえて「LGBT」ではなく「SOGIE(ソ
ジ)」という言葉からご紹介します。

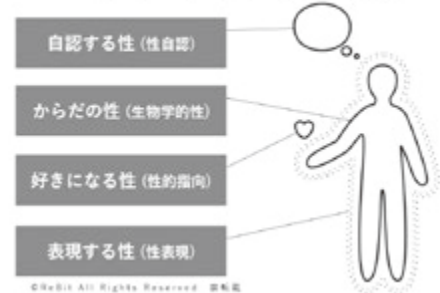
人の性のあり方(セクシュアリティ)は、次
の四つの要素の組み合わせで考えることができ
ると言われています。

- ①自認する性(性自認)
- ②からだの性(生物学的性)
- ③好きになる性(性的指向)
- ④表現する性(性表現)

このうち、③性的指向(Sexual Orientation)
のSOと①性自認(Gender Identity)のGI
をつなげた言葉が「SOGIE」で、全ての人の
性のあり方を人権として考えていく際に使われ
ています。④性表現(Gender Expression)を
加えて、SOGIE(ソジイ)とする場合も

あります。この言葉は、性のあり方は、特別な一部のみにだけ関連する話ではなく、全ての人にとって自分事であるというメッセージ

セクシュアリティの4要素



【図】セクシュアリティの4要素

を伝えるのにも有効だと考えています。このSOGIに関して、少数派とされる人を指すのが「LGBT」です。

L レズビアン 女性同性愛者

G ゲイ 男性同性愛者

B バイセクシュアル 両性愛者

T トランスジェンダー 性自認と出生時に割り当てられた性が異なる人

という四つの単語の頭文字から成っています。発信の際は、これらに加えて、「ヘテロセクシュアル(異性愛者)」「シスジェンダー(性自認と出生時に割り当てられた性が一致している人)」という単語も紹介するようにしています。SOGIという観点からは、少数派か多数派かに関係なく「様々な性のあり方の名前」として横並びで紹介したいと考えているからです。

しかし、LGBTの人たちは、困りやすいことも事実です。では、LGBTの子どもたちは、どんな困難に直面し、周りの大人はどんなことができるのでしょうか。

LGBTの子どもたち

私が、自分のセクシュアリティを自覚したのは高校生のときでしたが、小学生の頃から、周りとなじめていない違和感があったことを覚えていました。小学校では、名簿上の性別で学用品などが色分けされることに、「どうして勝手に赤にされるんだろう?」と思っていたし、中学校の制服での生活は、別人の台本を渡されて「一日うまくやりなさい」と言われているような感覚でした。振り返ると、小中学校は不登校と呼ばれる状態で、私にとって学校は「安心して過ごせる場所」ではありませんでした。

LGBTの比率は3%〜10%とも言われていますが、いじめや暴力を受けた割合が高く、不登校の経験も多いことが指摘されています。社会の仕組みが男女分けや異性愛を前提としているためにLGBTが「いないもの」とされてしまっている課題と、周囲が十分な情報をもっておらず、当事者が何気ない発言に傷つき、悩んでいても相談先が見つからない状況が挙げられ

ます。特に、自死念慮を抱く第一ピークは思春期の小学校高学年から高校の頃とされており、文部科学省の通知や自殺総合対策大綱の中でも、周囲の理解向上が必要であると示されています。一方で、学習指導要領に「多様な性」についての記述はなく、教員の約9割は多様な性について学んだことがないという調査もあります。

私自身、発信活動を始めてから、小中学校時代の先生方と再会する機会がありました。先生方からは「あの頃は全く気付いていなかった」「もっと早く知っていたら」という言葉を聞きました。先生方には、見た目では分からなくてもLGBTの子どもたちもいることを知り、次の行動につなげていただきたいと思います。

先生や周りの大人ができること

子どもたちのために、周りの大人や先生ができることがあります。

- ①多様な性のあり方について知り、考える
まずは書籍やWEBを活用し、情報を得て、身近なテーマとして考えてみてください。
- ②様々な性のあり方を前提とした言動と環境づくりをする

日常や校内で、不要な男女分けや異性愛を前

提とした場面がないか、見直してみることも有効です。また、子どもたちが必要なときに自分で情報にアクセスできるように、図書館や学級文庫に多様な性について知ることのできる書籍を置く、といった工夫もできます。



「ふつう」ってなんだ？ LGBTについて知る本 (学研プラス)

③ 「相談してね」と伝え、カミングアウトを受けとめる

環境づくりと並行して、LGBTについて否定的な発言には毅然と注意したり、国際的にLGBTの理解や応援のシンボルとなっている六色(赤・橙・黄・緑・青・紫)のレインボーを身につけたりすると、「相談待ってるよ」という目印になります。もしカミングアウトや相談を受けたら、ぜひ次のポイントを意識した対応をしてみてください。

- ・ 聴く…「話してくれて、ありがとう」といった言葉と共に、最後まで本人の話を聴く。
- ・ 知る…何に困っていて、どうしてほしいのかわかり、一人一人のちがいを尊重して共に考える。

- ・ つなげる…つながる…個人での対応が難しい場合や他のつながりを求めている場合、専門機関や当事者団体などにつなげる。先生自身も一人で抱え込まない。
- ・ 決めつけない…セクシュアリティを推測したり、決定を強要したりしない。
- ・ 広めない…本人の同意なく、第三者に伝えること(アウティング)のないように注意する。

④ 伝える人になる

ぜひ授業で「多様な性」について取り上げてください。最近では、教科書にも多様な性に関する記述が盛り込まれるようになっていきますし、後述する教材キットなどを活用した授業も考えられます。また、学校は保護者の方を含め、地域の大人に対する発信拠点にもなれます。

ReBitでは、行動したいと思う先生たちを応援するための取り組みを行っています。ひとつは、無償での教材セット「Ally Teacher's Tool Kit」(以下、ATTK)の提供です。中学校版と小学校高学年版の二種類があり、先生が学ぶためのハンドブック、「相談してね」を伝えるための六色のレインボーステッカー、授業で使える指導案やDVDがセットになっています。ATTKは皆さまからのご寄付によって学校現場への無償提供が続いています。先生が主体となって学校を変えていくというモデルや

その社会的意義が評価され、二〇一九年にグッドデザイン賞を受賞しました。また、二〇二〇年夏に、オンラインでLGBTに関する情報を得られるセンターの開設を目指しています。「自分も何かしたい」と感じてくださった方は、ぜひReBitのホームページからつながってください。



Ally Teacher's Tool Kit

大人が十分な情報をもつこと、そして、それぞれの子どもたちの背景を想像し、その子らしさを尊重するための引き出しを増やしていくことが、子どもたちの毎日を変えていきます。私自身も、大人の一人として、子どもたちに「あなたのままで大丈夫だよ」を伝えられる人でありたいと思います。そんな大人の輪が広がり、LGBTに限らず、全ての子どもたちに「あなたのままで大丈夫だよ」「人とちがうことはいけないことではないよ」というメッセージが伝わって、ありのまま大人になれる人が増えることを願っています。

(なかじま じゅん)

道徳授業私の実践

九年間の研究から考えたこと、

十年目の研究に生かしたいこと

ノートを活用して

和歌山市立岡崎小学校
道徳教育研究主任
豊田 麗香

児童が経験する学校生活には様々な道徳的価値が含まれているが、それらと自己との関連を深く意識することなく過ごしていることが多い。それを補充・深化・統合するのが道徳科の授業であり、自己を見つめ、振り返り、生き方を考えることこそが道徳性を育成すると考えている。

本校では総合単元的な道徳学習を計画し、児童に意識の連続性をもたせる工夫をしてきた。「道徳の授業」教える機会」ではなく「道徳の授業」つなげる機会」と捉えることを重視してきたのである。そうすることで、「生きた道徳の授業」の展開が可能になると

考え、研究を進めている。

本校の取り組み

道徳科での指導と教育活動全体で行う指導が行き交い、深まりや広がりがあるように計画を立てることを心がけている。そこで、本校の道徳教育の全体計画に基づき、児童の実態に即し複数の授業を焦点化した学習計画を学期に数回作成している。これは別葉を活用しやすくした本校独自のもので、「フォークスデザイン」と呼んでいる。また、授業においては、教師が前もって用意した内容にこだわりすぎず、

児童一人一人が主体的に考える授業づくりに取り組んでいる。

ノートを活用して

六年前から書く活動についての研究に取り組む中で、道徳の授業で学んだことを即実践につなげるべきだということ「理解↓実践」という自分のイメージが、「理解↓実感↓実践」というイメージに変化していった。

児童にとって、道徳の授業で学習したことを「理解」するのは難しいことではないが、「実践」に移すのは難しい。「あんなにいい意見を言っていたのに、どうしてここで一歩踏み出せないのか」と研究を始めたばかりのころは歯がゆさを感じていた。

しかし、児童のノートで「実感」する場の重要性に気付かされた。授業後に、登場人物が感じていた気持ちはこれかと身にしみて感じている児童がいた。ノートに書いた「実感」を機会あるごとに読み直し、徐々に「実践」に移してみようとする気持ちを高めていく児童の姿も見ることができたのである。

それまで私は「理解↓実践」にこだ

わりすぎていた。「理解の場」と「実践の場」の間に「実感の場」があるのだと考えれば、児童の成長のペースを無視して焦ることもなく、よい距離感で接することができる。そうやって初めて、継続的かつ他分野への広がりをもった道徳教育が可能になるのではないか。

ノートを活用することは、児童にとって日常のさまざまな場面を意識的に過ごし、「実感の場」を生み出すきっかけになるのではないだろうか。

今後の取り組みについて

今後も身の回りの生活体験を通して実践につなげる「理解↓実感↓実践」の流れを重視していきたい。

これは、児童の実態に即した学習計画「フォークスデザイン」を大切にすることとつながり、即ち「生きた授業」を展開することにもなる。

今年度も、これまでの取り組みからの学びを大切に、児童と教師で共に考え、共につくる道徳授業を研究していきたい。

(とよた れいか)

道徳授業 私の実践

自分の気持ちが伝えられる

道徳授業を目指して

石川県中能登町立鹿島
小学校 教諭
岡本 茉莉奈

はじめに

本校では、道徳授業の重点として①課題の可視化・共有②対話のある学び合い③自覚を深める書く活動の三つに取り組んできた。

授業の概要

- 主観名 みんなが気持ちよく
- 内容項目 C 規則の尊重
- 教材名 雨のバス停留所で
- (「新・みんなの道徳 4」学研)

①課題の可視化・共有

課題を児童と共有して授業に臨むことは、その授業で何をみんなで考えるのかを意識するためにも重要である。そこで、事前にとったアンケートの結果を児童に見せ、クラスのみんながきまりについてどう感じているのかを確認した。アンケートの結果からきまりは大事なものと分かっているが、なかなか守ることができていないという矛盾点に目を向けさせ、〈どうしてきまりはあるのだろう〉という問題解決的な課題につなげた。

②対話のある学び合い

多面的・多角的に考えることができ

るように、登場人物であるよし子とよし子のお母さんの気持ちをそれぞれ考えた。よし子にはよし子の思いがあったことを全体で話し合った上で、中心発問である《バスの中で怖い顔をして立っていたお母さんはよし子に何を考えてほしかったのかな》を児童に問いかけた。

個人で考える時間をとり、その後、グループで話し合う時間をもった。グループ用のワークシートは、よし子、お母さん、そして他のお客さんの挿絵を載せたものにし、いろいろな立場で考えられるようにした。

その後の全体での話し合いでは、「みんなは順番に並んでいるのだから順番に並んでほしい。」「きまりを守ってほしい。」という発言が多く出たので、さらにねらいに迫るために、揺さぶりの発問として「バスは順番に並んで待つというきまりはどこにも書いていないけど。」と問いかけた。

すると多くの児童から、「書いてないけど、並んで待つのは当たり前。」「みんなが生活するために、目に見えないきまりがある。」「いろいろな人に迷惑をかけるためにきまりがある。」

「みんなが気持ちよく生活するためにきまりが必要。」などといった発言があった。〈どうしてきまりはあるのだろう〉という課題に即して、中心発問や揺さぶりの発問を通して考えることができた。

③自覚を深める書く活動

道徳の授業では、自分のこれまでの生活などを考えるために振り返りの時間を多く確保している。「今まできまりはなんとなく守らなければいけないものだと思って守っていたけれど、みんなが気持ちよく生活していくためにきまりが必要であることに気付いたので、これからはしっかりと守っていきたい。」などと記入していた。

おわりに

道徳の授業では、教材を通して自分たちの今までの行動を振り返ったり考えたりして表現することが多い。そのために、土台としてなんでも話し合える学級づくりが大切である。これからも、自分の気持ちが伝えられる学級を目指して実践を積み重ねていきたい。

(おかもと まな)

道徳授業私の実践

高知県高知市立二宮中学校
教諭
井上美智子

道徳科で求められる授業実践に関して

本校は、高知市の北東に位置し、特別支援学級四クラスを含む、二十クラス五百四十五名の、高知県で二番目に大きな学校である。

平成二十八・二十九年度に「高知県道徳科研究指定校事業」の指定を受けて道徳科研究を始め、平成三十年年度から三年間、道徳教育実践充実プラン「道徳教育拠点校事業」の指定を受けて研究を続けている。

七つの取り組み

本校では、生徒の考える意欲を生かした、主体的に考え、学ぶ「道徳科」の授業を実践するために、以下の七つの取り組みを実践している。

① 22の鍵

まずは生徒が道徳科の時間にどのようなことを学ぶのかを分かりやすくするために、文部科学省『心のノート 中学校』の「いまここに24の鍵がある」を参考に「一宮家の22の鍵」を作成した。毎年道徳科の授業開きの際に説明し、教室に掲示もしている。

② ワークシート

ワークシートには、中心発問に関する考えと、授業で学んだことや考えたことを書かせるようにしている。中心発問については自分の考え以外に友達の見や教師の言葉など印象に残ったことをメモできる工夫をしている。

また、京都産業大学の柴原弘志教授

の講演を参考に、「自分の生活や体験から考えたことや振り返り」「他の人の意見を聴いて考えたことや振り返り」「これからの自分の生き方に触れた考えや振り返り」などを考えながら書いてみよう」という投げかけをワークシートに入れている。

③ アンケート

ワークシートの裏面をアンケートとして活用し、「教材に興味をもてたか」「自分の考えを伝えることができたか」「友達の考えを聞くことができたか」「授業の内容について深く考えることができたか」や『22の鍵』のどの鍵について考えることができたか」についての回答欄を設けている。

また「22の鍵」については毎時間の

ワークシートだけでなく、毎学期末にも「手に入れることができた鍵はどれか」とアンケートをとっている。

そして、「道徳科の授業で印象に残っている教材について」や、「道徳科の授業を通してどのようなことを学んだか」の記入欄を設けている。

④ 一宮スタイル・司会カード

教師向けに「考える」「つなぐ」「深める」をキーワードにした「道徳科時間の一宮スタイル（スタンダード）」版を作成した。これは、畿央大学の島恒生教授や、大阪府貝塚市立東小学校の川崎雅也校長のお話をもとにしている。グループでの話し合いの時に活用できる「司会カード」も作成した。

⑤ 授業の「流れ」

授業を行う上で発問から発問への「つなぎ」が難しい、という声があるので、参考として授業の「流れ」も作成している。

⑥ ペアローテーション道徳

二、三人の教師がそれぞれ異なる一つの教材を研究し、一人最低一回以上授業する形でローテーション道徳を実施している。

振り返ってみよう

1 教材について、興味をもって読めましたか?	A B C D
2 自分の考えを伝えることができましたか?	A B C D
3 友達のことを聞くことができましたか?	A B C D
4 授業の内容について、深く考えることができましたか?	A B C D

A: 量多すぎた B: できた C: あまりできなかった D: できなかった

今日の授業では、「22の鍵」のうち、どの鍵のことについて考えることができたと思いますか?
○をつけてみよう!

ワークシート裏面アンケート

道徳 22の鍵

あなたの世界を創っていく鍵

～2019～1学期～

A 自分自身に関しても

- 1) 怪しい心で物事・決定・実行し、責任を押しつける
- 2) 疑念・不安・恐れを乗り越え、決意を持って行動する
- 3) 自分自身を大切に、個性を伸ばしていく
- 4) 目標や理想に向かって、勇気をもって生き抜く
- 5) 真実・真実を求め、自分の人生を切り拓く

B 人との関わり

- 6) 思いやりや思いやり、人への尊重や思いやりを、それによってよりよくなる
- 7) 互いの個性を認め合い、その個性に合わせた行動をとる
- 8) 理解し合えないものもあるが、互いに正しく理解して相手の人生を尊重する
- 9) 個性や立場を尊重し、他人から学ぶ姿勢をほくくする

C 自然や社会との関わり

- 10) 道や道徳の意義を理解し、社会の秩序と規律を高める
- 11) 公正・公平で憲法や規則の正しい自由の実現を目指す
- 12) 社会正義の意識と社会正義の自覚を高め、よりよい社会をつくる
- 13) 道徳の道徳を自覚し、道徳や社会の発展に努める
- 14) 道徳の大切さを再認識し、その一員であること自覚する
- 15) 学校や学校の人が愛し、よりよい環境をつくり、信頼と責任を自覚し、道徳の道徳に努める
- 16) 道徳の道徳の一員として責任を自覚し、その発展に努める
- 17) 日本を愛し、愛した道徳の道徳と愛し、愛した道徳を、道徳に努める
- 18) 道徳の道徳の道徳を自覚し、道徳の道徳の道徳を目指す

D 道徳や社会・道徳なものとの関わり

- 19) 道徳の道徳の道徳を自覚し、道徳の道徳の道徳を目指す
- 20) 道徳の道徳の道徳を自覚し、道徳の道徳の道徳を目指す
- 21) 道徳の道徳の道徳を自覚し、道徳の道徳の道徳を目指す
- 22) 道徳の道徳の道徳を自覚し、道徳の道徳の道徳を目指す

教室にも掲示している「一宮家の22の鍵」

司会カード 一宮家編

1. 「これから話し合いをお願いします。」

まず(次に)○○さん、自分の考えを発表してください。

話し手が話し終わったら、すぐに次の人の発表に移ります。話し合いを深めたり広げたりするために、次のようなことを投げかけてみましょう。

話し手に「もう少し詳しく教えてください。」
「○○ということですか?」
「どうして、そう思ったのですか?」 など

聞き手に「さっき○○さんの意見を聞いて、どう思いますか。」
「○○さんの意見と似た考えの人はいますか? (自分の言葉で言ってください。)」
「○○さんの意見とは違う人はいますか? (それはどんな点ですか?)」 など

2. 「他に意見や質問があればお願いします。」

3. おい(司会者が自分の考えを話します。「私はこのように考えましたが、みんなはどう思いますか?」

「話し合いのルール」
*話し合いの時間は3分以内。
*話し合いの時間は3分以内。
*話し合いの時間は3分以内。
*話し合いの時間は3分以内。

わが校の職員室では、毎週道徳科の

実際の授業での悩み

⑦ 教員用道徳ノート

生徒の様子を記入して評価に生かせる教員用ノートを作成した。裏面には教室の座席表を印刷し、机間巡視しながら、生徒の意見やワークシートに記入していることなどをメモできるようにしている。

2019年度用

道徳科時間の「一宮スタイル」(スタンダード)

導入 3分以内。目標(何について考えるか)を出すまでがあってもよい。

展開 1 総論 8分～15分

教材が長い時は朝読書で読ませておく。
読み終わったら教科書はできるだけ閉じさせる(答えを探さないように…)。

2 教材の内容の精読(簡単に…「どんな話だった?」)

おさえること
主人公(必要であれば他の登場人物)
出来事
どこで主人公の心が動いたか(ない場合も…)

3 中心発問に關わる発問を1～2つ(短めに)

4 中心発問(20分～25分で行けるように…)

発表は個人が班か生徒に選んでもよい。

「深めるためのキーワード」
「それ、どういうこと?」
「もう少し説明してくれる?」
「どうしてそう思うの?」
「～についてどう思う?」
「それってできる?」
「なぜできない?」
「もう少し具体的に言える?」
「ちょっと隣の人と話してみて。」

「つなぐためのキーワード」
「さっきの○○さんの意見、どう思う?」
「○○さんが言いたいこと、分かる?」
「だれかもう一回説明してくれる?」
「○○さんの意見をもっとわかりやすく言える人?」
「○○さんの意見と似た考えの人? (自分の言葉で言ってみて)」
「○○さんの意見とは違う人? (どんな点で?)」

「生徒がワクワクする」キーワード
「なるほどー!」「よく考えたね!」「いい意見だね!」
「そだねー!」「さすが!」「○○さん、すごいと思うわん!」
「それは先生も気づかなかった!」「いいねえ!」
「いいこと言うねえ!」

「ねらい」に迫る内容が出てきたらOK。
生徒の意見を「こういう意味だね」と教師が説明しない。
教材から離れず、「ねらい」に迫る内容が出てこなければ、「ねらい」に迫る発問を足す。

まとめ 5 量り減り 7～8分(できれば10分)

じっくりと書かせる。
「今日は22の鍵のうち、どの鍵のことについて考えることができましたか?」

6 終わり方(教材から離られるように…)

時間があれば…感じたこと、考えたこと、発表したこと。
「今日は○○でよりよく生きる…ということについて考えましたね」
教師の話し話など(価値の押し付けにならないように…)

今後の展望

- ・「構造的な板書」が難しい。
- ・「誰もが」「どのクラスでも」「どの教材でも」できるよう「道徳科の一宮スタイル」をしっかりと浸透させたい。
- ・そして生徒の考える意欲を生かした主体的に考え、学ぶ「道徳科」の授業づくりについて、今後も学校全体で研究を続けていきたい。
- ・授業後、その時間に関する会話が飛び交い、笑顔が絶えないが、前述の七つの取り組みを実践するなかで、次のような課題があげられた。
- ・時間が足りない。
- ・中心発問について深く考えさせることができない。
- ・日常生活と結びつけるのが難しい。
- ・価値の押しつけになっていないか。
- ・生徒同士をつなげることが難しい。
- ・(教師と生徒一対一になってしまふ)
- ・授業者が「ねらい」をはっきりさせておかないと道徳的価値に迫ることができない。

(い)のうえ みちこ

道徳授業私の実践

石川県金沢市立北鳴中学校
教諭
北村 美菜

多面的・多角的に考え、 自己の生き方について考える授業づくり

令和元年度、金沢市の「主体的・対話的で深い学び実践事業」の道徳部会の研究に参加した。その研究内容と実施した授業を紹介する。

研究テーマ設定の理由

主体的な判断に基づいて道徳実践を行い、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことが道徳科の目標である。そのため、多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話し協働しながら、物事を広い視野から多面的・多角的に

考察することが求められる。また、様々な道徳的価値について、自分との関わりも含めて理解し、それに基づいて内省することが求められる。

そこで本研究では、生徒自らが問題意識をもち、物事を多面的・多角的に考え、自己のよりよい生き方について考えを深める授業づくりをテーマとして研究を進めていくこととした。

研究の重点

重点1 問題意識を持てる導入の工夫
導入を工夫することで、ねらいとす

る道徳的価値への方向付けをし、現在の自分を見つめ、問題意識をもって主体的に学習に取り組むことができる。そのため、自分自身を振り返るための事前アンケートや全体で共有する具体例の取り上げ方、教材との出会いなどを工夫し、生徒が問題意識をもって考えられるようにする。

重点2 多面的・多角的に考えるための工夫

多面的・多角的に考えるとは、「自身自身に関すること」、「人との関わりに関すること」、「集団や社会との関わりに関すること」、「生命や自然、崇高

なものとの関わりに関すること」の四つの視点を踏まえて学習することを意味すると考えている。そこで本研究では、生徒の多様な価値観の存在を前提としてペアやグループ等、様々な形態での話し合いの場を取り入れる。また、多様な意見が出やすいように、発言に對する問い返しや発問を工夫する。

重点3 自己を見つめ、よりよい生き方を考えるための工夫

自己を見つめ、よりよい生き方について考えを深めるためには、学習した内容を基に、これまでの生活を振り返り、自己の変容を自覚させることが大切である。そのために、本時の学習のねらいを明確にする。また、振り返りの場面では、アンケート等で学習前に考えていたことと本時で学んだ大切なことを比較させ、自己の変容を自覚できるようにする。そして、道徳ノートへの記入により、自己内対話を促し、自己を見つめ、よりよい生き方についての思いや願いをもたせる。

実際の授業

○主題名 誠実な生き方

○内容項目 自主、自律、自由と責任

○教材名 「裏庭での出来事」(『中学生の道徳 明日への扉 1年』学研)

○ねらい 責任ある行動とは自ら考え、判断し、実行することであることに気付き、判断する力を育てる。

○教材について

本教材は、裏庭でボール遊びをしていた三人の生徒の言動を通して、ねらいに迫るものである。

遊んでいたとき、猫にねらわれていた鳥のひなを助けようとして、ボールを投げてガラスを割ってしまう。一人が先生を呼びに行っている間に、残りの二人がまたガラスを割る。二人が先生に正直に伝えなかったため、三人の関係がこじれてしまうという内容である。

仲間との関わりの中で、周囲に引張られず、自らを律し、責任ある行動をとろうとする主人公の気持ちの変化に着目して指導することが重要である。

【導入】

「いけないとわかっているのに、つい間違った行動をした経験はあるか。」

この発問に対して生徒からの具体例があまり出なかったため、教師が中学

生だった頃の経験を話した。生徒は真

剣に耳を傾け、「そのとき、どう思っただか。」「結局どうなったのか。」などの質問が出され、本時の問題を身近に感じていく様子が見られた。

【展開】

「なぜ健二(主人公)は、大輔(罪を隠し通そうとしている友達)や先生に怒られるのにガラスを割ったことを言いに行こうとしたのか。」

この発問に対して、「ずっとモヤモヤした気持ちが続くのが嫌だから。」という意見が出たため、モヤモヤした気持ちとはどんなものかを考えさせた。すると、「自分も悪いことをしたのに、正直に言いに行かず、隠し通さなければならぬときに感じる気持ち。」

「後でバレたら、言いに行くよりも強く先生に怒られるのが怖いという気持ち。」

「雄一(正直に言いに行った友達)だけが悪いことになってしまっただけが汚い」と言われたままで過ごしていかねばならぬという気持ち。などが挙げられた。

「モヤモヤを晴らすためにどうすればいいか。」と尋ねたら、「正直に言いに行く。」と答えたため、「正直に言い

に行くとなぜモヤモヤが晴れるのか。」

と尋ねた。すると、「自分の気持ちがつきりする。」「後悔しない。」「反省できる。」「更生できる。」「雄一との友達関係を取り戻せる。」「自分が正しいことをしているから、大輔に対する気まずさも減る。」という意見が出た。

生徒はそれぞれの登場人物の立場に立って、また自分自身の立場に立って、多面的・多角的に考えることができた。

【終末】

「自分の態度を決めなければならぬ場面に直面したとき、考えなければならぬことは何か。」

- ・何が正しいか正しくないか白黒はっきりさせ、自分の意見をもつこと。
- ・他人の意見を聞くことより、自分で一番正しい判断をし行動すること。
- ・本当に自分のためになるのかをしっかりと考え、必要なら反省すること。
- ・今後どうなるかを予想して、どう行動すればいいのかを考えること。
- ・後悔しないか、自分のためにも人のためにもなるかを考えること。
- ・自分のことだけでなく、その言動によって周りの人にふりかかる影響な

どを考えること。

・物事をいろいろな方向から見えて考えること。
本時の問題を自分事として捉え、今後どう行動したいかを各自で考えることができたことがうかがえた。

おわりに

本時では三つの重点を意識して授業展開を行った。重点1については、実際に起こった事柄を挙げることで、ねらいとする道徳的価値への方向付けをし、問題意識をもって主体的に学習に取り組みうとする姿につながった。重点2については、特に葛藤がある場面で意見交換が盛んに行われ、自分の意見と他者の意見を比較する様子が見られた。重点3については、終末で振り返りの時間を取ることで、自分事として改めて考え、自己の変容や、新たな価値への気付きを実感することができた。

今後より主体的・対話的に深く学ぶためにどんな授業展開が有効であるか考えていきたい。
(きたむら みな)

道徳授業私の実践

思考を深め、思いを巡る旅を

共に楽しむ授業づくり

見えないものをみる(みとる)力

愛知県弥富市立弥富北
中学校教頭
岡田 幸博

見えないものをみる(みとる)力

学校現場では「特別の教科 道徳」が本格実施され、様々な実践が積み重ねられている。生徒たちのよさや成長の様子を的確に捉え、授業を活性化させるためには、授業者の「見えないものをみる(みとる)力」の質的向上が欠かせない。

生徒のよさや成長の様子は、簡単に見えるものではない。しかし、日々授業を行い、毎日生徒のよさや成長を「みよう(みとろう)」「と奮闘している教師であれば、理屈や理論ではなく、

実感として理解できるものである。

アクティブ・ラーニングに関する考察を行う際、「目に見えない生徒一人一人の学びの質やその変容を、授業者がいかに捉えるか」が一つのポイントとなる。それは道徳科の授業でも同じである。なぜなら、人は思考を深めれば深めるほど黙る生き物だからである。考えや思いを巡らすことで、悩み、沈黙し、自分の思考を巡る旅をする。この自己内対話から、学びの楽しさや発見する喜び、共感する気持ちよさが生まれる。授業者にとって、この部分をどれだけ「みとれるか」「のぞけるか」が勝負となる。

一人でないからこそ生み出せる時間

「多面的・多角的な見方」は、人に教えてもらうものではない。授業で触れる多様な意見は、自身の思考を深める触媒にすぎない。自分自身の思考を巡る旅である自己内対話にこそ、学びの面白さが内包されている。

一人の生徒が意見を述べる際、聞き手は発言者が伝えようとしている言葉の奥にあるものを想像し、感じようと全身で受け止める。その際、相手の目を見てうなずき、耳を傾けるなど、非言語コミュニケーションを大切にす。この姿勢を皆で共有できるとき、しっとりとした極上の時間が生み出される。この時間は一人では生み出せない。共に考える友人がいるからこそ生み出せる静かな時間である。

共に巡り思考する楽しさを味わう

「お盆が来て、何年か経ってからお母さんに手紙を書くことで、お母さんにはここにはないけれど、今でも私とながっている気がしていると思います

す。」「私もお父さんが死んじゃったんですけど。ちょっと思い出しちゃって……すみません。二歳のときだったから、お父さんとの思い出とかは覚えてないんですけど。いろんな人に目元や口元がお父さんに似てるねと言われるので。絆とかもあるのかなって。」

これは、家族愛をテーマにした授業で、生徒が語った言葉である。これを聞き、私は自分の両親を思い出し、考え、想うことが止められなかった。私自身、父を早くに亡くしており、生徒たちの言葉一つ一つが自分の気持ちと共振した。

その授業は今でも鮮明に覚えている。生徒たちの語る言葉に、表情に、家族の意味、親子の絆、存在が心の中に生き続けることを、授業者である私が教わり、気付かされた。今思い出しても、心震える時間であった。

見えないものをみる(みとる)力。それは生徒に共感し、共に思考する教師自身の心をみる(みとる)力である。生徒と共に考えや思いを巡らせ、人生における大切な生き方を共に見つめる極上の時間を、これからもつくっていききたい。(おかだ ゆきひろ)

どうなるこれからの道徳授業

連載8回 ローテーション授業編

監修・法政大学兼任講師 廣瀬仁郎先生
マンガ・のはらあこ

とくちゃん

学先生



ローテーション授業ってなんだっけ。

学年の先生とローテーション授業をしてみたら？

担当教科の準備に、行事の準備、日々の仕事で道徳の授業準備が全然進まない。

一人の先生が同じ教材で四クラスの授業をするんだね！



	1組	2組	3組	4組
1週目	A	B	C	D
2週目	E	A	B	C
3週目	F	D	A	B
4週目	C	E	F	A
5週目	B	F	D	E
6週目	D	C	E	F

担当者	教材
1組担任	A
2組担任	B
3組担任	C
4組担任	D
副担任	E
副担任	F

例えばこの例では、道徳の授業を学年四クラスで、同一の曜日、時間に設定しているよ。

「ローテーション授業」は、学年の先生たちと分担して、交代で道徳の授業を行う取り組みのこと。

ローテーション授業をすると、こんな効果があるよ。



分担しているから、たくさん時間がとれる！

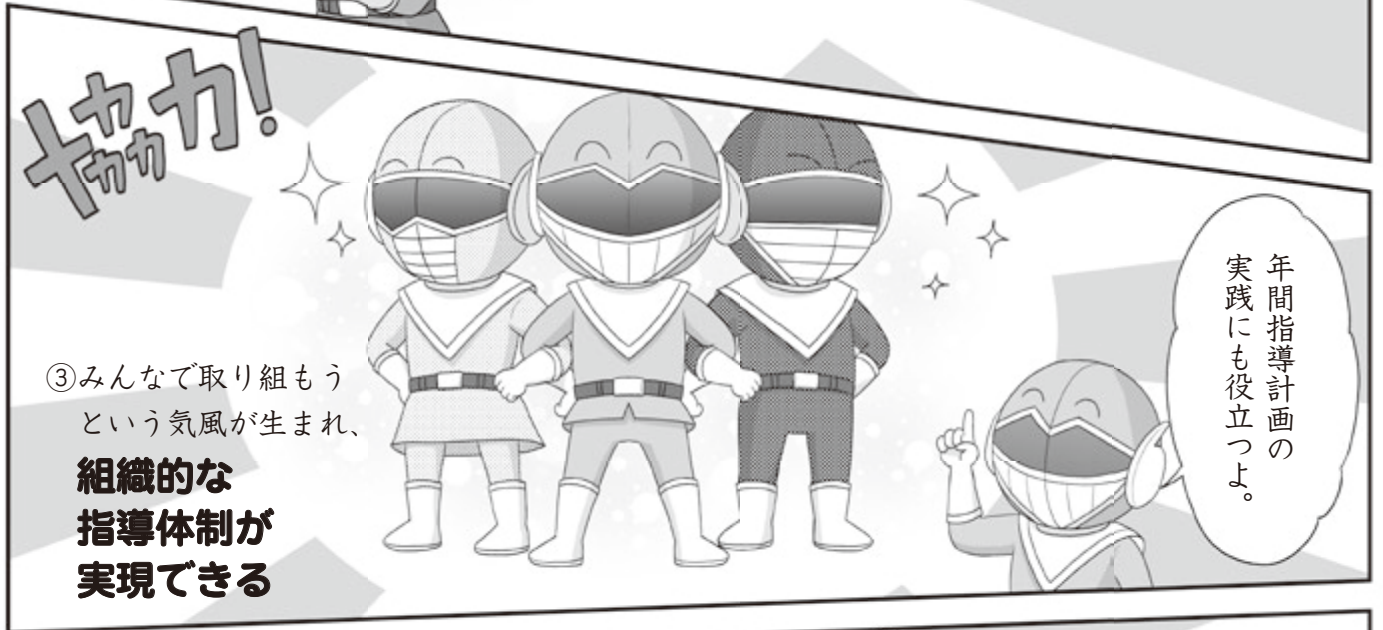
①教材の検討など、授業の準備がじっくりできる

- ・多忙な業務を効率化できる
- ・生徒とゆっくり向き合える

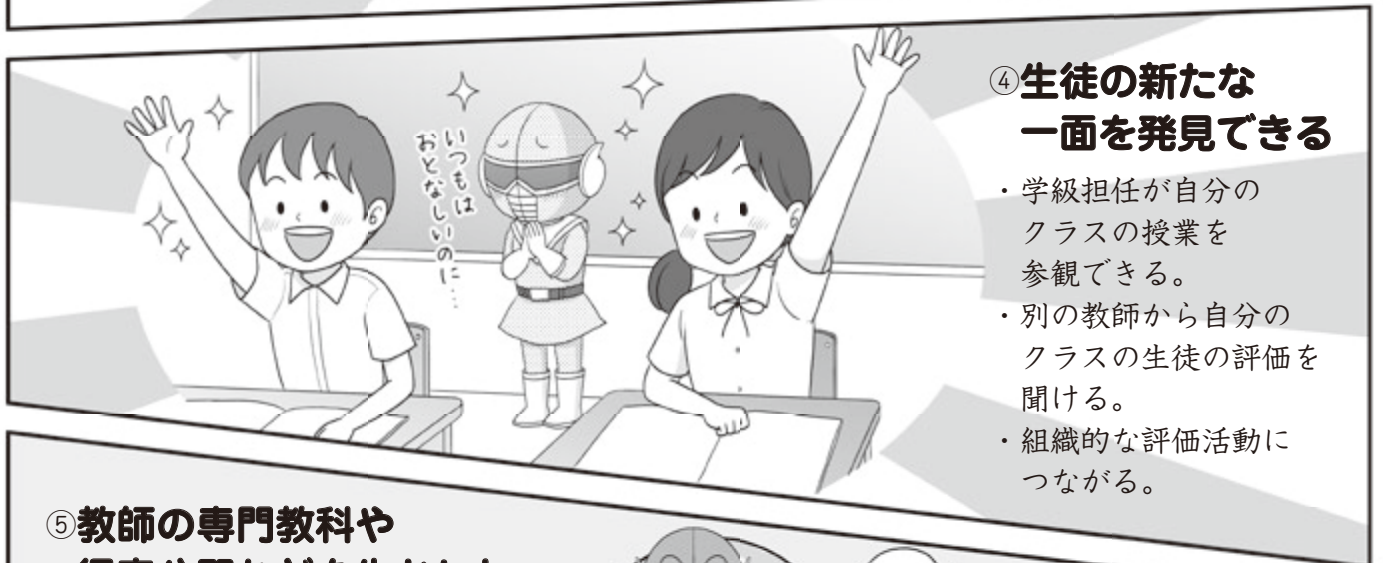


② 次の授業で 即改善できる

- ・ 何度も同じ教材で授業をすることで、指導力が向上する。



③ みんなで取り組もう という気風が生まれ、 組織的な 指導体制が 実現できる



④ 生徒の新たな 一面を発見できる

- ・ 学級担任が自分のクラスの授業を参観できる。
- ・ 別の教師から自分のクラスの生徒の評価を聞ける。
- ・ 組織的な評価活動につながる。



⑤ 教師の専門教科や 得意分野などを生かした 授業ができる

専門を
生かせる！

森久彌さん
のさん

社会

外国と日本
の……

理科

iPS細胞
が……

演劇部

イチローは……

体育

実際には始めるときは、
こんなことに
注意してみてくださいね。

- ・ 毎回行うのではなく、年に数回程度にする。
- ・ やりっぱなしにならないように、
授業後に振り返りの時間を取る。
- ・ 生徒の学習状況などの情報交換をする。
- ・ お互いの授業を参観できるようにし、
指導法も高め合えるようにする。
- ・ 校長、教頭、養護教諭なども
巻き込んで行うと効果的。



ナウウイルス発生当初は、私たちにとって遠くで起きた出来事だったと思います。それがじわじわと広がっていく様子を知ることによって徐々に自分の生活にも影響があると気づき、そこから向き合い方が変わっていったのではないのでしょうか。そして自分の意思決定とは関係のないところで行動制限や休校が決定され、状況が深刻であるという認識をもち、気付いた時点で、人々の行動が変わっていったと思います。これが一つの「自分事化」のプロセスでしょう。

「自分事化」について、SDGsに関して言うと、学校に通えない子どもたちがいることを扱った教材で、子どもたちが家族を支えるために片道2時間かけて15リットルの水をくみに行っているという話をするとします。児童生徒たちにその大変さをイメージできない場合は、実際にポリタンクに15リットルの水を入れて運び、それがどれだけ大変な作業なのか体感してもらうことで、一気に自分の身の回りの生活につなげることができます。



水を運ぶ作業を通して、遠くの世界の話が自分事になる。

気候変動対策のためにゴミを何トン減らす、と言われてもイメージができないのであれば、実際に普段出しているゴミがどのくらいの重さなのか、それは多いのか、どれだけ減らすことができるかといったことを視覚的に見せたり、体感させたりするような工夫が大切です。ストリートチルドレンが普段遊んでいる、コインをめんこのように投げるゲームを実際に行ってもらい、感想を聞いた後に「あなたたちはこれを一日中、365日できますか？これが今路上に生きている子どもたちの生活なのです」と投げかけることで、遠くの世界の話が一気に自分の目の前に来る機会になります。

気候変動にしても、貧困問題にしても、国内外の課題は、見えていないけれども実はつながっています。私たちが安易に安いものを求めて購買行動をするといったことが原因で、子どもたちが安い賃金で働かされ、貧困を生み出す仕組みが作られています。気候変動は、私たちの日々の生活における温室効果ガス排出量が多いことが、大きな要因の一つになっています。そしてその被害を最も大きく受けるのは先進国に住む私たちより、脆弱な環境に暮らす人々であることが往々にしてあります。

私たちの行動が何かを引き起こす「原因」であるならば、授業を通じて、遠くの世界にあることを少しでも「自分事」として捉え、ポジティブな「原因」となるように行動する意識をもたせることが大切です。

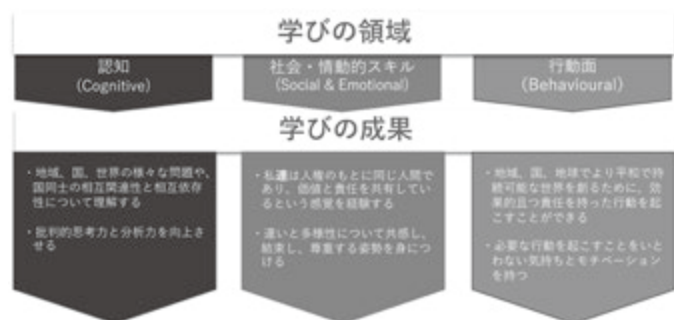
● 授業での指導について

道徳の指導法に悩む先生は多いかと思いますが。それは模範となる解答がないということも理由の一つではないでしょうか。決まった形の指導法もありません。そこで、SDGsに関しては「教える」という意識をいったん横に置き、先生方も一人の学習者として「共に学ぶ」という姿勢、学びをリードしていくファシリテーター的な役割を意識してほしいと思います。道徳は自己の内省を導く問いで溢れています。答えられないこともたくさんあります。だからこそ、「先生もわからないから一緒に考えてみよう」と、本音を語れるような場をつくるのが大切です。SDGsを授業で扱うことが、その助けになればうれしく思います。

調査・研究統括
一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト (GiFT)
木村大輔

次回、道徳を通じたSDGs教育のカリキュラムマネジメントや、ESDカレンダーなどの実践についてご紹介いたします。

ということを授業で扱ってください。SDGsに関係していないテーマでも同様に扱うことで、道徳がSDGs達成に向けた意識づくりに大きく寄与することを体感できるでしょう。



(ユネスコ：グローバルシチズンシップ教育の学習目標)

自分一人では解決できない複雑なこともたくさんあります。しかし、そこで諦めるのではなく、一人一人が課題に向き合い、小さな行為・行動変容を起こしていくことで、大きな動きとなり、環境が変わるきっかけになり得ます。義務教育の時期にこうした思考を身につけること、他者を思いやる意識、社会感情スキルと言われる領域を扱うことで、その後の人生に大きな変化が生まれるという調査結果もあります (OECD)。一回で完結する学びではなく、授業を通して常に問いかける仕掛け作りが重要です。

例えば、貧困の話題を扱った授業の次に、地球環境とゴミの問題を扱うとします。どれも遠くの話に感じますが、常に自分事にする問いかけをし、最後には「あなたはこの問題について何をしたいか、何ができるだろうか？」という問いを投げかけてみてください。最初は何も出てこないかもしれませんが。しかし道徳の授業で児童生徒同士の対話を重ねていくと、児童生徒一人一人が友人の意見を聞いて感じ取ったことから何かしらできることを見いだすようになります。先生からの、「こうした方がいい」という言葉よりも、同世代や同じクラスの友人から受ける刺激の方が、意識や行動変容に与える影響は大きい場合もあります。同調するのではなく、共有を通じて一人一人の人格や価値観に触れていく、そうしたプロセスを意識してみてください。

●SDGsのゴールは一つ一つが相互につながっている

二つ目は、SDGsのゴールが相互につながっていることへの気づきを促すことです。

授業で扱うテーマが地球環境だとしても、その背景には経済や社会動態など様々な事象が関係しています。「どう

したら平和な社会が作れるのだろう」という大きなテーマは、限られた資源を争う＝生活がかかっているが故の競争や教育格差、飢餓、貧困、不平等にも関連しています。「どうしたらいじめのないクラスが作れるだろう」という課題も本質的には個々の意識の問題にかかっています。

特定のゴールについて理解することも学習目標の一つですが、そのゴールが他のゴールとどのようにつながっているのか気付かせることも意識してください。そして最も重要なこととして、グローバルなものと国内のこと、クラス(社会・コミュニティ)のことを分けて考えず、全てが相互に関連していることをまず認識した上で、そのつながりが自覚できるような問いを用意してください。児童生徒からはたくさんの視点や考え方が出てくるのではないのでしょうか。



SDGsのゴールは、相互に関連している。

●自分事にするための工夫をする

三つ目は、それぞれの課題を「自分事」として捉える工夫をすることです。

自分の知らないことに対して「自分事」として捉えるのは非常に難しいことです。しかし、地球規模の課題は、直接的・間接的に私たちの行動が原因になっているものばかりです。ただ、あまりに遠すぎて実感が湧かなかつたり、自分たちの行動がどう結びついているのかイメージがつきにくかったりすることも多いのではないのでしょうか。

一方で、自分の周囲で起きていることに対しては誰もが自分事として捉えやすいものです。その「周囲」の認識を広げていく機会としてSDGsを通じた学習活動を進めていってください。私たちが今まさに渦中にある新型コロナウイルスの世界的蔓延も、これから世界で足並みをそろえていかねばならない地球規模の課題の一つです。新型コロ

SDGs × 道徳

連載 第2回

SDGsを教育現場で扱う上で意識したいこと

第1回で紹介した、SDGsを教育現場で扱う上で意識したい三つの点について、今回は詳しく説明していきます。SDGsとは、世界がより持続的に発展でき、平和な社会になるための17のゴールです。その達成には、一人一人が何を大切に生きていくか、他者・環境とどう共生していくのかという指針を自らつくること、そして行動の基準となる道徳的な判断力を身につけることが基盤となります。

●「学習者の行動変容」をもたらす

この基盤を学習活動につなげる上で意識してほしいことが三つあります。一つ目は「学習者の行動変容」をもたらすことです。「学習者の行動変容」をもたらすために、次の三つの領域を意識した問いが大切です。

①認知領域（知識・思考力）

②社会・情動（感情）領域

③行動・行為領域

これらは道徳の授業にも関連する領域であり、道徳的問いが重要であるということです。また、行動変容のためには、児童生徒自らの心から湧き出る自己の感情や気付きを扱うことが重要です。

教材を通して、

- ・世界で起きていることについて理解を深める。（知識）
- ・なぜこうした課題があるのか原因を考える。（思考力）
- ・当事者の立場を想像し、自分に置き換えてみる。（感情や価値観といった社会感情面）
- ・多様な意見や感情を共有する。（対人関係構築能力）
- ・自分は課題に対して何ができるか考え、行動に移す。（行動面）

話題のSDGs。中学校の学習指導要領にも盛り込まれています。

SDGsの解説をはじめ、「取り入れたい！」と思えるような学校現場における実践などを、連載でご紹介していきます。

道徳ジャーナル106号 令和2年9月発行

発行所 株式会社 学研教育みらい 発行人 甲原 洋／編集人 木村友一

本誌のお問い合わせ先…小中教育事業部 〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8

内容については…TEL (03) 6431-1565 (編集) それ以外のことは…TEL (03) 6431-1151 (販売)

URL <https://gakkokyoiku.gakken.co.jp> ●「道徳ジャーナル」は左記ホームページでもご覧いただけます。電子版(iOS, Android用)は「学研ブックビヨンド」から。

9300007459

学研 学研教育みらい ネット 検索



校外学習や修学旅行に！

体験型英語学習施設



TOKYO GLOBAL GATEWAY

プログラムを展開する2つのエリア



アクション
エリア



アクティブイマー
ジョン
エリア

まるで海外にいるかのような空間の中で、常にイングリッシュスピーカーが寄り添い、オールイングリッシュの環境で様々なプログラムを体験できます。プログラム開発には、英語教育の専門家が携わり、先進的なCLIL (内容言語統合型学習) の考えを取り入れるなど、質の高い英語コミュニケーション体験を提供します。

先着順 学校利用予約はウェブサイトから！



<https://tokyo-global-gateway.com>

TGG東京都英語村

検索

✉ tgg@tokyo-global-gateway.co.jp

☎ 0120-86596-1 受付時間/月～金(祝日除く) 9:00～17:00

★当施設のCOVID-19拡大防止対策についてはお問い合わせください。



〒135-0064 東京都江東区青海2-4-32
TIME24ビル1～3階
ゆりかもめ「テレコムセンター」駅徒歩2分